



河小だより

校 区 内
全 戸 回 覧

6月20日発行

心組み

校長 川上 治男



学校の玄関前には、1年生が毎日水やりを欠かさず育てている朝顔が日に日に大きくなり、もうすぐつるがのびてくる勢いです。また、2年生が育てている野菜の苗も大きくなり、トマトなど青い実ができつつある野菜をみることができます。

さて、5月25日（土）の運動会には、大勢のご来賓、保護者、地域の方にお越しいただき、大きなご声援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

競技の勝ち負けではなく、応援の様子や係の仕事等、競技以外のところでも子どもたちの頑張る姿を見ていただくことができました。

積極的に物事に取り組もうとする心の持ち方を「心組み」と言います。学年に関係なく「心組み」のしっかりしている子どもに共通しているのは、「言動に落ち着きがある」ことです。「正しい言葉遣いができる」「返事、あいさつ、後片付けができる」等、周囲（相手）を意識した行動ができています。行動の一部として、その姿を見ることができます。



5.25 運動会（なごさ会の皆さんの演奏による佐渡おけさ）

運動会は、学校の大きな行事です。どうしてもイベント的な要素がクローズアップされてしまいます。しかし、私たち教職員は、本番が成功すればよい、子どもたちが楽しければよい、という気持ちで指導してはいません。

運動会への取組を通して、前述の「心組み」を育てます。運動会練習も、当然「授業」です。授業に教師は工夫を凝らします。「心組み」は、教師と子どもの「心」が組み合わなければ生まれません。さらには、子どもと子どもの「心」の組み合わせも大事です。それこそが、学校で学ぶ醍醐味、素晴らしさと思われれます。

日々の学習で、子どもも教職員も、自分の成すべきことをきちんとやっていくことが、心組みにつながります。

様々な行事がある度ごとに、「練習は本番のように、本番は練習のように」ということを子どもたちに話します。これも「心組み」の一つです。

また、運動会当日の挨拶の中で、「勝っても負けてもさわやかに行動する。勝負は時の運。勝つときもあれば負けるときもあります。勝っておごらず、負けて腐らず。さわやかに喜び、さわやかに相手の勝利をたたえてください。それができるということは、あなたの心も強くなるということです。体だけでなく、心も強くする運動会にしてください。」という話をしました。これも「心組み」の一つの例として話しました。



ご家庭でも、日常生活での「心組み」を育てていただけるようお願いいたします。